

学習意欲の向上に期待！ 関川小学校で「ICT（情報通信技術）」を試験導入！



「NTTグループが主体となって行っている教育スクウェア×ICT」事業。これは、教育現場にICT（情報通信技術）を導入し、その効果や問題点を検討することを目的に実施しています。

試験運用期間は、平成二十三年から最長三年間の予定で毎年五年生が対象となります。

なお、この事業の対象校に選ばれた小・中学校は、関川村のほかに、秋田県八峰町（三校）、鹿児島県与論町（三校）、神奈川県川崎市（一校）、岡山県倉敷市（二校）の全国五自治体から十校です。

「タブレット端末」と「電子黒板」を導入

5年生児童全員にタブレット端末を配付し、教室には電子黒板を設置しています。

タブレット端末は、授業で使用する端末のほか、希望者には家庭用としてもう1台配付しました。家庭用の端末は、主に学校と家庭の連絡網として使われています。

電子黒板は、デジタル教材を見たり、テレビモニターとして使用したり、さまざまな用途で使われています。

児童用タブレット端末や電子黒板は、あくまで、授業をより分かりやすく、有効に進めるための、ひとつの道具として使われています。



タブレット端末
(写真は家庭用に配付されている端末と同型のもの)

ICT教育とは？

ICT教育は、コンピューターやネットワークなどの情報通信技術を活用し、情報を収集する力、整理する力、創造する力、表現する力などを育むことを目的としています。そして、子どもたちが授業に対して、理解や興味、関心が高まることを期待しています。

また、ICTを導入する以前に比べ、教師にとっても、授業で使用する資料の準備作業が軽減されたなどのメリットもあります。

ICT支援員が常駐

関川小学校には、タブレット端末や電子黒板などの使い方について先生や児童にアドバイスしたり、学校との調整役として「ICT支援員」が常駐しています。

期間は、トライアルが終了するまでの予定です。

ICT教育に期待すること

昨今の学力低下の実態は、学ぶ楽しさや学習意欲の喪失にあり、ICTを活用したこのトライアルで、学習意欲が向上することを期待しています。

電子黒板やタブレット端末を使うことで、「具体的な学び」ができて、より学びの楽しさを再確認できるのではないのでしょうか。「学ぶ・喜ぶ・理解する」実感を得られれば、子どもたちの学習意欲につながっていくものであると考えています。

トライアルが始まってまだ間もないですが、子どもたちの表情は変わってきました。喜んで授業に取り組み、自分で課題解決ができるようになりました。この事業は五年生が対象学年となつていますが、来年度は六年生も使えるよう拡充したいと考えています。



関川小学校
川村 三千男 校長

どんなことをやっているの？

電子黒板やタブレット端末、デジタル教材を使った授業のほか、このような授業も行われています。

「交流授業」・・・

交流を図ることを目的に、電子黒板をモニターとして活用し、そこにお互いの映像を映し出して行う授業です。今後は、他の対象校との交流授業を検討しています。

「ICT授業」・・・

インターネット安全教室と題して、インターネットの正しい活用方法やインターネットの危険性などについて学びました。

「子ども安全連絡網」・・・

登録している保護者に対して、緊急時の情報や普段の学校からのお知らせなどを、メールや音声機能を用いてお知らせしています。

今、注目されている「デジタル教材」

「デジタル教材」とは、デジタルデータで表現された静止画、動画、CG、シミュレーションなどを使用した教材のことです。

特徴は、音声や映像が使われていることや、たくさんあるデータの中から必要な部分だけを選んで使うことができるという点です。

現在、理科と社会科の授業で「デジタル教材」が多用されています。理科の授業では、川の流れの映像を見たり、社会科では、グラフ映像を用いて水産業について学びました。

今後、理科や社会科以外の授業での活用も検討されています。



自動車工場の社員が映し出された電子黒板の前に座り、直接質問や提案をする児童。教室にしながら、愛知県にいる工場の人たちに質問をして、いろいろなことを教えてもらいました。

こんなことも可能！
教室と工場をつないで授業

取材当日は、社会科で勉強してきた日本の工業（自動車製造）について、実際に自動車工場に働いている人に話を聞いてみようとして、関川小学校の教室と愛知県豊田市にあるトヨタ自動車工場をインターネット回線でつなぎ、お互いの顔を電子黒板に映し出して授業が行われました。

画面の前に一人ずつ座り、疑問に思っていることなどを直接質問し、回答してもらいました。今までは、教科書を使ったり教師が作成した資料を見たりして授業を進めてきましたが、ICTを導入することによって、今までの情報にプラスして、教室にいながらさまざまな交流が図れたり、必要な情報を得ることができるようになりました。

保護者。児童。

教師の声

授業を見学した保護者

実際に授業の様子を見て時代の変化はすごいと思いました。その場に行かないと質問もできなかったし、情報も得られなかったのに、教室にいながら質問もできて、情報を得られるというのがすごい。せっかくこの授業に慣れてきたのに、一年間だけでなくもう少し続けてほしい。

五年生児童の

五十嵐佑太さん(上関)

工場の人たちから直接話を聞くことが出来て良かったです。タブレットは自由自在に使えるからおもしろい。前に比べて、タブレットや電子黒板を使った授業の方がおもしろい。

五年生担任の

加藤 僚 教師

タブレットは、情報量が豊富ですが手元で見ることができない。子どもたちにも良い資料が届けられる。以前に比べ、資料の準備も楽になりました。時間のロスもなくなりました。子どもたちの学習に対する意欲づけになってくれればと思います。